

木質バイオマスの混焼発電実施へ

中部電力 2022年3月から年間50万t使用

中部電力は、再生可能エネルギー開発の環境として、石炭専焼火

いて、木質バイオマス燃料の混焼による発電を実施することを決めた。2022年3月の営業運転開始を予定しており、バイオマス燃料である木質ペレットを混焼することで、石炭を専焼する場合と比較してCO₂排出量を年間約90万t削減できると見込んでいる。

木質ペレットを使用し、バイオマス発電量は年間約12億kWh[※]を想定している。

同社は、「地球温暖化対策をはじめとした環境保全への取り組みを重要な経営課題の一つと位置付けている。今後、地域や関係各所の理解・協力を得ながら、計画を進めていきたい」としている。

力として設備入れ替え計画を進めてきた武豊火力発電所5号機にお

武豊火力発電所5号機は愛知県武豊町に立地し、出力は107万kW[※]。混焼計画では、木質バイオマス燃料は木質ペレットを使い、混焼率は約17%（発熱量比）。年間約50万tの